東薬新聞

顧問　村山　学長

編集発行責任

東京薬科大学新聞部

新宿区柏木2—600

東薬祭盛況裡に終る

快晴に恵まれた十月二九日より三日間、静かな寺町を時ならぬ賑いにして我々の東薬祭は開催された。三日間を通じて来客は広からぬ廊下ではあるが埋め尽して頗る盛会であつた。

ベンゼン核の大きな飾りを仰ぎ入場すると、人いきれでむつとし先づ最初の教室、合成薬品教室（化研）に入ると、度々新聞紙上をも賑わしている覚醒剤についての発表が一般の人々に仲々好評であつた。

薬理教室（生研）に移ると天による血圧に関する薬理実験等が興味を唆つたであろう。プログラムにも謳われた如く〝薬の知識のサービス〟と言う面からもこの二つの部は共に充実した内容であると認められた。

下剤をめぐる植物性、薬品教室（植研）の発表も判り易い点で可成り良い内容であると言われ、他の部にあつても、多少のムラこそあれ何れも立派な発表であると評された。質問に答えるのみならず来客に滔々たる説明をしている姿も随所に散見され、学生諸君の向上意欲と努力には全く敬服した。会場が狭隘であるとの当初の懸念も担当学生全員の努力で克服され来客に大きな迷惑を与えなかつたのは幸いであつた。

深川タマエ女史（30日）、竹中稲美氏（31日）の二つの講演を含む講堂の催しも常に盛会であつて立錐の余地もない程満員で大成功を収めた。

また他の文化部においても、郵便局の出張を得た切手展、大方の好評を得た写真、美術、書道等の展覧場、文字通り〝知識のサービス〟たる新薬展示場、地下という不利な場所でわれわれにとつて最も重要なる医薬分業問題をとりあげた社研、女子部だけの生活研究部等いずれも東薬祭を一そう満足きであつた。

地理的条件も悪く、前宣伝も昨年より活発でなかつたにもかかわらずあれまで盛んにしたことは喜ぶべきことであつたが、反面今後にも残さるべき問題が多くあるのを知るべきであろう。

女子部を会場としたのに、多かるべき女子部学生がかえつて男子部学生に頼つている感じもなくはなかつたし、学術部の説明でも〝何となく頼りない〟というような評も寄せられるほどで残念だつた。男子部学生は、もつと女子部学生を補佐し、たすけ合つて一層充分なる成果をあげるように努められ、女子部学生には仕事に強い自信をもたれたいと切望する。

また〝薬の知識のサービス〟とは縁遠いような教室や、難解な説明もたまたま見受けたが一般を対象として考えるならば、学生側は一段と〝判らせる〟ということに留意すべきではなかつたかと考えさせられた。われわれにさえ難解なものを一般に知らしめようとすることの可否はまだ今後も考えられるべき問題であろう。

手洗所を仮設しなければならなかつた女子部校舎に、収容しきれぬほどの内容を盛り上げた今年の東薬祭が無事に終了したことを喜ぶ前に、かげの力となつてこの行事を支持して下さつた諸先生、先輩、各薬業関係会社、又強く東薬祭を推進し、たゆまざる努力を重ねられた執行部の人々にわれわれは感謝の意を表すにやぶさかではなつてはなるまい。年々進展すべき東薬祭のために今後ともわれわれは全力をつくし一層の発展を願うべきであろう。

論説　東薬発展のために

東薬祭が終つてほつと一息、重荷を下した解放感に、深まりゆく秋の日和を楽しみたい、とは学生一同の願うところであろう。だが東薬の現状は我々学生に心の底からその生活を楽しむことを許さないものがある。というのは東薬の輝かしい伝統の蔭にかくれて徐々に蓄積されて来た矛盾が漸く飽和点に達し、そのため学内に散在した諸々の不満が凝結されて具体的な形となつて現れ始めているからである即ち、単位制の問題、指定席の問題、食堂の問題、実験器具の問題、卒論の問題等々。その いずれをとつても我々の学生生活から滲み出たものである。そしてそれ等の問題は一見各々独立して存在するかの如く見えるものもあるが、その根底に流れるものは一つであり、此れが解決されぬ限り学生生活の向上は望むことが出来ない。

そこで、現在考えられる唯一の解決の道は「話し合うこと」である。学生相互、或いは学生と教職員の間で真剣に話し合つて問題を究明し具体的な方法を考えてゆく以外に道はない。

幸い我々は「教職員と学生の懇談会」という真にすばらしいプランを持つている。此れは自治会発足初頭からの懸案であり規約によれば毎月一回以上開くことが定められている。

我々は此の懇談会を充分に活用することによつて前記の問題の大半、否全部が解決の第一歩を踏み出すことを確信している。然しながら全く残念なことに此の懇談会は今迄未だ一度も開かれていない。勿論そこには止むを得ぬ事情があつてのことではあろうが、関係者諸君が此の懇談会の意義を深く考慮すると共に如何に優れたプランであつてもそれが実行に移されぬならば単なる砂上の楼閣に過ぎないことを再認識され万難を排しても一日も早く開催されるよう期待する。

尚此れに加えて希望することは此の懇談会が実施された場合単に懇談のみに終らせぬよう注意してもらいたいということである。懇談会の成果はそれが例え極めて小さなものであつたとしても直ちに自治会執行部の活動となつて現れなければ意味がない。換言すれば懇談会においてまかれた種子が豊かな実りとして全学生の中に滲透したときはじめてその目的が達せられるのである。そしてその時、薬学教育の特殊性、私学という経営面からの規制等の扉によつて鎖された理想の学園への道は自から開かれ、古き伝統に磨かれた薬学の園「東薬」は薬科大学のみならず、あらゆる大学の中に燦然として輝くユニークな存在となるのである。

異例の前夜祭

十月二十三日、将に東薬始つて以来最初の行事として前夜祭がおこなわれたことは全学生にとつてその内容は充実したものであつた感銘深いものがあつた。恰かも好天に恵まれ、集つた学生は全てではなかつたが最初のものとして、各種競技に湧く声援、仮装行列に惹き起こされた満場の笑い、こんなことは今までどこで見られ、聞かれただろうか。

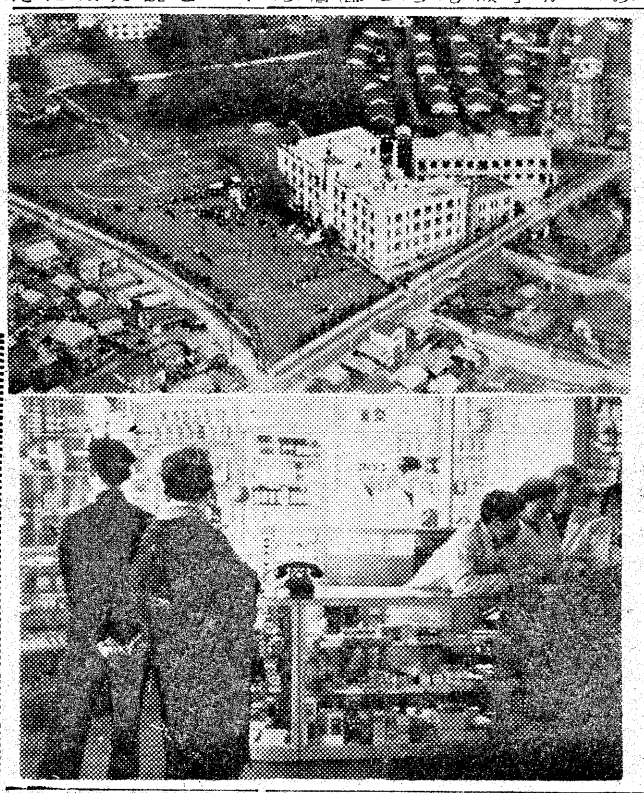
午後講堂に開かれた文化祭も全学生一つになつて笑い、叫び、拍手を送つた。各部競演に見せた軟式野球部、写真部、化研等のいずれ劣らぬ熱演、景人会競演に見せた群馬県人会を始めとする実に見事な民謡、扮装を凝らして躍り出る各県人会の面々のたのしげな顔悩みや暗さを微塵も留めぬ喜びに満ち溢れた顔、女性的だといわれていた男子部学生の何処にこんな面が潜んでいたものだろうか？それが一時に一所で爆発した感じであつた。

ピペットの代りに尺八を咥えた学生、植物の学名の代りに落語を巧みに誦じた学生、ビーカー揺する手を三味線の撥に代えた学生等どれもこれも喝さいを浴びたのは全く当然なことであつた。

然し絶対に好評を得るべきこの催しが一般の学生に何故か冷やかに見られていた感もある。

開会式に集つた男子部学生は果して全体の何分の一有つたろうか講堂に集つたものは何割だろうか女子部の学生が出欠をとる条件にしろ午前中に殆んど揃つていたことを考えると、男子部の学生が執行部の人々の熱意に溢れる活動にも拘らず一向に構わぬというようであつたのは遺憾であつた。素より〝強制することなくやりたい人がやる〟という形式であつてみればこうなるのも当然であろうが、こういうところに本学学生の一つの在り方を見る気もし聊か不満なしとしない。

一方、全く最初に前夜祭を開いた執行部の人々の努力には敬服するが、女子部との連絡不備、時間の延長、競技場と講堂との連絡不備等の点から学生が不満を抱いたことをお伝えしよう。勿論凡ゆる点で尽力された執行部の人々の活動は以上の欠点を補つて余り有ると全学生は銘記すべきであろう。明年より連続して前夜祭が開催されるであろうが、全学生は率先して参加し、自から楽しむというようでありたい。



写真説明　中写真（上）前夜祭風景の空プ（下）東薬祭モデル薬局のスナツ

黎明を破る　自治会好調

去る六月二十八日最終的に自治会結成の決定が学生大会によりなされ、次いで七月二日自治会委員長及び副委員長の全学生による投票が行なわれ同夕刻決定をみた。

委員長　青山恵一郎
副委員長　桑原　滋

各学年六名より成る自治委員会が七月三日開かれ規約による執行委員の選出を行い、緊急問題として東薬祭、薬連を特別委員会として認めた。

学生大会

七月五日、先に自治委員会で選出された執行委員と、一、二、四学年一名、三学年二名宛選出された監査委員の紹介信任決定を行つて

自治委員長	青山恵一郎
副委員長	桑原　滋
委員　喜田　久	原田　重雄
四　杉野　宗平	中村　栄三
中島正次郎	勝俣　光郎
三　石戸　良治	池沢　光男
上吉原　徳	松尾　節男
斉藤　剛吉	矢倉　建一
二　一ノ瀬茂夫	岩城　吉孝
岩田　宗平	阿久津英夫
山根　昭	足立　純郎
一　稲田　理格	富岡　清
富所　恒春	品田　平三
前田　三郎	佐久間光一
執行委員長	青山恵一郎
副委員長	桑原　滋
書記長	一ノ瀬茂夫
会計部長	針谷　和正
学術部長	今井　恒樹
文化部長	菅　吉太郎
体育部長	吉野　俊郎
渉外部長	松尾　節男
厚生部長	桜井　一男
調査部長	池沢　光男
新聞部長	石戸　良治
監査委員	福本　欽一
	浜谷　耕吉
	佐藤　隆俊
	川島　隆三
	篠原　茂男
	久保田重光

十月五日自治委員会を開き、山岳部より山小屋建設についての件が提出され、検討の結果山小屋建設委員会を設置することになり、自治委四、山岳四、女子部二名で構成され資金調達のため山岳映画の会を開催することも決定された

十月十一日学生大会で過去の経過並びに今後の方針と前夜祭についての説明がなされた。

一、山小屋建設委設置報告その他

一、前夜祭の具体的内容の説明

今後の問題として、教授との話合い。厚生関係の改善。その他につき抱負が述べられた。

自治会の発足以来日時が浅いが一般に運用に就て不慣れのために混乱を来たしているが如くであり一、二学年は当初の熱意が薄れ、その声が委員によつて代表されていない。旧学友会よりも大きい機構の自治会を盛上げるためには一部のものとしてはならない。

薬連の動き
—秋季大会の準備進む—

関東薬学生連盟はさる十月八日本学男子部において定例委員会を開催すべく召集されたが出席校五校で定数に達せぬため議題は次回に持ち越すこととして懇談会に移行された。この間、副委員長牛山君よりさる七月十五、十六、十七日の三日間、京都市内各所にて行われた第八回関西薬連大会に出席、その報告があつた。この報告のなかで同君は関東、関西の薬学生の性格の相違にふれ「関東にくらべて関西の薬学生は各薬大が距離的に遠いためか自校に対するプライドが高い。このことは薬連という組織の立場からすると一長一短あつて一概に良いとか悪いとかいうことはできないが運営面が複雑になつていることはたしかである」と述べて注目をひいた。

次回委員会は十一月九日同じく本学にて出席校七校をもつて成立開催され前回より持ち越された議題を討議した。主なる決定事項は

つぎのとおりである。

来年度よりの授業料の値上げに対する反対は各薬大自治会または学友会に働きかけ戦線を統一して運動を展開する。

秋期文化祭は「薬学生の夕べ」として来る十二月十日ごろ、芸術映画、軽音楽、合唱、軽演劇等をもつて行う。場所は未定であるが併勢丹ホールを予定している。

体育祭は現在進行中の各試合の決勝戦を十二月十日に集中する。その他新聞も十二月十日までに出版する。

なお、今年度は秋季祭のための臨時費は徴収しないことに決定し

書評　宮木高明著　新薬　川瀬清

「薬学」を学ぶ我々にとつて「『薬学』とは何か？」という問題が解決されていないことは甚はだ矛盾したことであるのみならず「『薬』とは如何なるものか？」すら明確な定義がない、というに到つては奇怪というほかはない、ともあれ我々が今日まで学んで来た薬学は医療の目的に使用される物質の自然界からの抽出、構造の解説、その合成等が大部分であつた。

そこで「新薬」という本書の表題から我々が推測する内容が、所謂「新薬」の構造や薬理作用の羅列的解説であつたとしても不思議ではないだろう。だが一度この本を手にするときその予想は幸いにも完全に裏切られたことを知ることが出来る。即ち著者は本書において因循姑息なるアカデミズムを打ち破つて「薬」を社会との関連のもとに説明している。従つて、新薬とはいうも内服薬のみならず殺虫、殺鼠剤、風土病薬等まで広く扱つているが、この点「宮木教授ならでは…」の感が深い。しかもなお、出版期限ぎりぎりの一九五三年の問題までとり上げられていることは、本書の対象が一般大衆であるにもかかわらず専門のわれわれにとつても解説書として意義のある所以である。

そこで内容を一瞥すると、心得帖と名付けて総論をとり上げ、薬の広告、名前、値段、買い方等一般の人々にとつては極めて重要でありながら専門家がとかく蔑ろにしがちな問題を最初に挙げている又個々の薬についても教科書的でなく「生活の薬」として職業病と薬、食生活と薬、すまいと薬、或いは「薬の四季」として、春の薬夏の薬、こどもの薬といつたように人間生活を中心に興味深く解説されている。

この様に本書は類似の書籍の追従を許さぬユニークな性格を持ち今後の「薬学」の在り方に一灯を点じているということが出来るが唯此処に問題となるのは「薬」を素人療法との関係においてのみとりあげ、医療体系との関連に論及していない点である。その限りにおいては「新薬」が歴史的、経済的に正しく位置づけされていないとの誹はまぬがれない。勿論この欠陥はその原因が著者自身にあるのではなく、朝日シリーズの性格から避け得られなかつたのではあろうが、宮木教授の学識に傾倒し同書の価値のより高きを願う我々としては、医療体系の中における「薬」について一言でも触れて頂きたかつたと望むのは当然であろう。

東薬祭の所感を聞く

東薬祭を見て載いた先輩に所感を聞いて見ました

毎年行なわれている東薬祭は、学生のデモストレーションで社会から遊離している様な気がする、それよりも大衆の薬に対する要望疑問等の相談に応じられる様に、基礎的な事を身につけて、一般の人の、健康の保持、病気になつた時の処置、又公衆衛生等の質問に答えて所謂、P、R運動にもつて行く方がよいのではないか。

薬を通して大衆につながりを持たせて、学校の存在を知らせ、又、医薬分業の必要性をも理解してもらうべきである。

根本問題としては、学校教育、学問と称せられるものの在り方、何の為に勉強するかという事をもつと考えて、社会と密接なつながりを持たせて行くべきである。

又他の先輩は次の様に語られた東薬祭と聞くと、やはり出かけて来れずにはいられない。

自分達のやつた事も思い出されてなかなか懐しいものである。東薬祭の意義、今後どうあるべきか等種々問題もある事と思うが、年々、東薬祭そのものが進歩しているのが分る。

座談会　東薬の現状

東薬祭の開催される前に新聞部主催で座談会を男子部で行なつた出席者は、女子部六名、男子部四名であつた。司＝司会者

司「東薬祭についての意見は」

A「男、女子部合同でやるのは意義があるが学校の内容が異り、又学校側の考え方が片よつているのでやりにくい」

B「学校側がもつと協力してくれたら一般的にもより充実したものが出来るだろうと思います」

司「協力してもらい度いのはどう言う点ですか」

C「女子部では実験室が開放されていないので、一々許可をもらい又、ガスも五時迄なので実習の遅く終つた時など研究出来ず、殆ど土曜日にしか出来ない状態です」

D「男子部では実習室は開放されているが、ガスもやはり五時半で止めてしまう。」

司「女子部で実習室の開放されていない理由は」

B「後仕末が悪い事と女だから帰えりが遅くなると危いと言う理由で時間も制限されているのです」

司「東薬祭の学術部テーマについては」

E「各部間でテーマが異り又各部内においても統一がとれていない」。

F「テーマの一貫性が欲しいと言う事は毎年東薬祭の度に参観者側から言われている事だ」。

G「学術部全体で統一したテーマがとり上げられると好いが」。

F「テーマを選ぶ場合ジャーナリステイツクなセンスが欲しいですね、例えば東大の五月祭で黄変米や、ガイガーカウンターをテーマとした所があつたがそこは他より観客が押しかけている様だつた」。

H「しかし私達の場合は一年も前からテーマが定められていて変更が不可能なのですからどうしても新鮮さに欠ける様になるのではないでしようか」。

司「東大の五月祭と東薬祭をくらべるとどうちがいますか」

I「東大の場合、五月祭は三、四年が二、三カ月前から準備、研究して発表するのですが、われわれの場合は全学年が、平常の研究活動を見てもらうためのものです」

C「それについて、東薬祭は学術的すぎるという意見があるのですが、どうでしようか」

D「それは毎年出る問題ですが、研究を主とするか、また観客を主とするかは、テーマそのものは学術的でも観客に対してはわかりやすく説明することによつて両者併立させようというのですが」

司「今まで仕事をしてきて感じたことはないですか」

A「女子部では東薬祭に関心もつている人と、いない人の差がはげしいですね。それだけに実際にやつている人の負担が大きくなりがちです」

D「それは男子部においてもいえることですね」

C「男子部との連絡がとれないので仕事が大変やりにくい。学校は離れているし、電話はいつでもふさがつているし、直通電話が十本位あつても足りないのではないでしようか」。

司「では男女共学について」

I「やればできないことはないと思うのですが」

F「しかし学長は男女両部は元来ちがうもので、将来は全然別個のものとすると言明されましたが」

A「大学に昇格するために合併しているということですが」

B「共学になれば、女の人のこせこせしたところがなくなると思います」

I「大体同じですね、それに試験問題も傾向が大体同じですね」

司「講義内容は異つていますか」

E「暗記物が多く、ガリガリの傾向をつよめるのが多いですね」

F「もつと考える問題がほしいね」

B「女子部では分析が良い問題が出ていますね」

司「男子部では自治会もできたしこれからは教授たちと話し合う機会も多くもてること と思いますが」

G「なるべくそういう機会を多くもつて、東薬をよりよい大学にするようにして行きたいものですね」

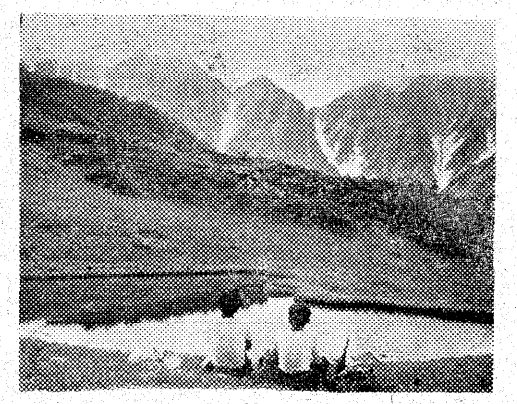
司「いろいろの意見が出ましたが今度の東薬祭に東薬の名に恥じない盛大なものにして行くよう、皆さまの努力を期待しています」

東薬ヒュッテ建設計画具体化さる

かねてより山岳部を中心に計画が進められて来た東薬ヒユツテの建設計画はその後順調に進み、建設地も白馬山麓八方尾根黒菱平と決定した。此の地は既に写真で紹介したとおりであるが、北アルプスの展望、高山植物の豊富な点、夏のキャンプ、冬のスキーに好適である。設計は約十五坪、中二階耐風、耐雪、耐寒構造で三十名を収容出来るものを予定している。

建設工事は今年十一月着工、来秋完成の予定である。

尚建設委員会では去る十月二十六日行われた「基金募集映画会」の盛況を感謝し、同時に今後の激励、協力を強く要望している。



建設予定地に於ける
白馬岳の展望

読書の技術

林　源司

死を超越して、思想、知識が何千年何億年を通じて浄化し結晶せしめられて活用されている事実を見るとき、私達はその媒介物たる書物の重要性を考えないではいられない。

毎日をライブラリアンとしての生活に、あれもこれものダイジエスト的な私の読書は、たとえそうすることが務めの上の一手段ではあつても、深くしかも一貫し得ない自分にたまらぬ寂しさと焦燥を覚える。

真の読書とは、多くのものを読む以上に、その一つ一つに懸命なる吟味を持つてこそ意義が存するのであつて、私の如き「技術」を欠かした読書は嫌悪すべきものである。そこで思うことだが、本の読み方に理屈も作法もないではないかというのはウソであつて読書ということが私達の精神生活の大事な仕事である以上、そこには当然「技術」が必要なのである。

私の「読書技術」というのは、例えば百頁のものを一時間で読み終えるとか、一冊で五冊分の知識を仕込むといつた工合の安易さを覚えることではない。そんなカンニングみたいな安手な方法技術ではない。私達は読書によつて学ばなければならないことが実に多いしかし無計画にはどの一つをも学ぶことができなくなる。無駄を省くこと、合理的に学ぶこと、そういう技術が必要なのである。

現在、街の書店にはあらゆる種類の本がぎつしり並んでいる。そうした中に自分を置くとき、あれも読んでない、これもまだまだ、あれもこれも自分には必要なものばかりだ―「ワアー」といつたたまらぬ衝動にかられて来る。こうした、まさに書物乱脈の現実の中にあつて当然無駄を省き合理的に学ぶ事の必要が生じて来る。

幼稚な例だが、かのエジソンは十二歳の頃、列車内の新聞売子としての毎日に三〇分の停車時間を定まつて町の図書館に突走り棚から一冊ずつの本を読んでいつたそうだ。けれどもある日、幼いエジソンは「何年かかつてもそこにある本を全部読み尽すことはできない。それに毎日本は刊行されている。自分は何を学ぶつもりかはつきり決めてその方向に進む他途がない」と考えそして彼が選んだのは科学であつた。

能力、背景、目的と色々な条件にしばられながら少年エジソンが決意したように、私達は何を学ぶか、学んだものをどのようにして身につけ、現実の問題をどう処理するかと自身で考え、そしてそこに自からの読書方法をつくり、着実な歩みで自分の現在を進展させるときにおいて始めて書物が自分のものとなり、より以上の自分へと導いてくれるものと私は考える。

（筆者は本学図書館司書）

女子部便り

部の数こそ少いが何れも熱心なメンバーを揃えている運動部の消息をお伝えしよう。

テニス部は薬連リーグ戦に出場し明薬、共立等と団体並びに個人トーナメント戦を行う。バレー部も薬連リーグ戦が十三、四両日より行われ優勝候補と目されている。卓球部では三日に行われた対明薬との定期戦に四対三で惜敗したが近づく理科系大学対抗団体戦に備え猛練習中である。またダンス部では毎週火、金の両日練習を続け薬連文化祭に出場する。

女子部で生れた「東薬を分析する会」では目下、東薬祭に発表されなかつたテーマを学内に公開することと、部報の発行とを企画、着々実行に移し学生の自治意識昂揚に努めている。

振動板

君が代

一年　XE

入学以来一年生として、僕は本校で種々な事を聞き、見、そして実行した。そして喜びもし、大いに失望もした。失望した種々の事の中で先ず驚いた事は入学式の時だつた。開会の辞に続いた次の式目は、君が代であつた。この項目を式次と書かれた紙の中に見つけた時僕は全くびつくりしてしまつた。その上驚いた事には二回続けて歌わされた事だ。僕は君が代の形式等は全く知らないが同じ歌詞がさもよくあじわえという様に続けて歌われたのである。この君が代は今では単に有識人の間だけではなく、高、中学校内でさえ問題にされ、その歌詞の内容は大いに疑問をもたれているのである。あの歌詞に現われている事は誰が家の讃美にすぎない。我々がこの歌をその内容も考えずに歌う事は全くのあやまちなのである。さてその君が代が国の行事と何の関係もない学問の自由の園の入学式に堂々と音頭がとられて歌われているのである。一体全体これを歌わねばならない理由がどこにあるのだろう。果してこれは今年の入学式に限られた事なのだろうか。それともこれを歌う事が本学の規律或いは不文律となつているのだろうか。もしそんな事だつたら僕は本学の良識を疑わざるを得ない。

芽ぶき

細野　信夫

東薬の名にあこがれ、入学の喜びを胸に秘めて、毎日柏木へ通学する中に段々と幻滅を感じざるを得なかつた。これが大学だろうかと思つた事も幾度あつた事だろうその中にあきらめの気持にもなりマンネリズムの毎日を繰返えしてもう四度目の秋を迎える

活気のない学生達、誠実さのない先生、聞こえない講義、そんな事ばかりが頭の底にこびりついている。本当に東薬を愛し育て行こうとする人が果しているのだろうか「こんな先生に教わる事を不幸と思え、その前にこんな学校に入つた事を不幸だと思え」。こういわれた先生もある。これを聞いてただ無精に腹がたつたのは僕ばかりではあるまい。自分自身がおろかしく思えた。東薬を貧いかぶつたのが悪かつたのだろうか。しかし少くとも僕は東薬をこんな学校などといいたくはない。最近は何だか春に木の芽がふき出す時の様な生き生きした感じが東薬にも出て来ている。四年間通つた東薬が一日も早く大学の名にふさわしい学校になる事を切望している。

一言

私達薬学生は一日中部屋の中に入つたきりで外の空気を吸う時間は精々昼休み位である。この短い時間を校庭で運動でもして体を動かそうと思うが、学校にはその器具さえない始末である。予算の一部をこの運動用具設備に利用出来ないものだろうか。

よく駅の改札口辺りに雨に降られ、雨具の用意も無いので止むのを待つている人達を見受ける事が時々ある。私達もこの人達と同様に学校で雨に降られ小雨になるまで空を眺め乍ら待つ事がある。この様な時、学校に雨傘の用意でもあれば大変便利なのだが、この様に必要な物を学校で揃える事は出来ないだろうか。当局の回答を紙上をもつて御願いする。

運動部の動き

柔道部

去る六月以来活発に運動してきた道場再建委はすでに大学当局の許可を得、元道場（現卓球場）の一部に道場を再建すべく努力を重ねている。

主将伊原君談「学長先生はじめ諸先輩の御理解と学生諸君の御協力により待望の道場ができることになり非常に感謝して居ります。柔道部といえば右翼暴力団の温床のように思う人達があるようですが、柔道は健全なスポーツで、われわれは柔道を通じてよりよき学生が育成されるものと信じています」

軟式野球部

東都大学軟式二部リーグに優勝

春季二位に甘んじたが、秋季リーグ戦において春の優勝校成城大学をストレートで破り初優勝を獲得した。この結果十一月十八、九日に一部農大と新宿東京生命球場で入替戦を行う。なお八月下旬仙台の東日本大会に東京代表で参加中部名城大学に惜敗した。御声援下さつた仙台の学生諸君に厚く御礼申し上げる。

陸上競技部

六月中旬横浜で全関東医歯薬陸上大会が行われ、総合順位では明薬に一点差で昨年に続く準優勝を惜しくも逸したがトラツクでは他を圧し優勝した。つぎに九月三日の全日本医歯薬大会には総合順位五位、トラツクでは準優勝と、わずか五名の選手をもつて活躍し全国の選手をおどろかせた。

ラグビー

発足以来半年、困難を乗越え九月関東医歯薬リーグに加盟し一勝一敗の戦績。ウインタースポーツ・シーズンをむかえて一同懸命に練習にけげんでいる。

東薬　0―12　理大
東薬　6―3　昭和医大

バレー部

学連リーグは試験による放棄試合多く残念ながら五部になつたが薬連リーグには大いに頑張る。

寝言集

○学校あつての学生である。
―A教授

需要あつての供給か、供給あつての需要か。
―B教授

○男女共学は時期尚早である。

逆コースの最先端を行くのかな
○大学は卒業させればよいのであつて、就職の世話をする義務は全然ない。
―C教授

まさにトコロテン大学の現状
○病院薬局の就職口だけは責任もつて世話します。
―学生課

但し交通費弁当百円、手当なし
○伝統に反しない様に、又現状にそぐわない事はやらない様に
―D教授

これでは全然進歩しませんね。
○こんな大学に入つた事を不幸と思え。
―E助教授

サギ罪は第何条だつたかな
○バカは勉強しなくてもよい
―F教授

東薬はバカでも入れるのですか
○女子部の学生はお帰えり下さい
―女子部教授

保護者が帰えりたかつたのです

一、東大大学院入試問題

次に掲げるのは、本年度、東京大学大学院化学系研究科薬学専門課程の入学試験問題で専門科目の問題であり学生諸君に参考のためお知らせしよう。受験した人の話では、外国語と数学が難解であつた由、今後の為、諸君の発奮を期する次第である。因みに本年の入試は十一月四日（外国語、化学と物理、生物、地学の中一科目）、五日（数学、専門課程）、六日（身体検査）、八日（口述試験）と行われ専門課程の試験時間は二時間三十分、下記八題中五題選択であつた。

一、血圧下降を来たす薬物名を挙げ、その作用点を併記せよ。

二、A シソ科、セリ科、クスノキ科、ミカン科の四科は精油植物が多い。各科について次の名称を記せ。

1 精油を含む分泌器官
2 主な生薬二種
3 各々の有する精油の主成分

B フラウオン、フラウオノール、フラヴアノン、フラヴアノール、アントシアニジン塩酸塩
イソフラヴオンの基本骨核を記せ。

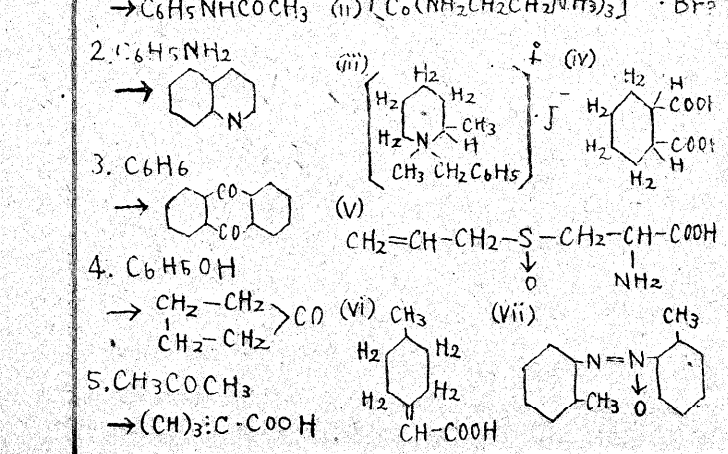
三、解糖作用に於ける燐酸の役割を論ぜよ。

四、左記の物質の生化学的意義を簡単に解説せよ。

1 リポ核酸
2 十七―ケトステロイド
3 プレグナンジオール
4 蛋白結合ヨウ素
5 七―デヒドロコレステロール

五、左記の物質の立体構造を簡単に説明せよ。

六、次の各項左辺のものを原料として右辺のものを作るのには如何にするか、その反応の経過を式を以つて説明せよ。



七、蒸溜水「日局六」滅菌蒸溜水「日局六」及び注射用蒸溜水「日局六」の異なる点を挙げよ

八、A、いわゆるPH試験紙、アンチモン電極及び硝子電極などを比較し、その得失を概説せよ

B 天然アミノ酸の一般の定量法二種をあげ、その原理を説明せよ。